

熊川宿若狭芸術祭 関連企画 | WAKASA ART PROJECT 2026

ふれる かさなる あらわれる

2026

10.30 FRI. — 11.1 SUN.

会場 | 熊川児童館
（福井県三方上中郡若狭町熊川30-17）

10:00-16:00
最終日は15:00迄

企画・運営 | 福井県県内高校生・大学生 有志メンバー
企画・制作・運営 | 武蔵野美術大学 芸術文化学科 佐々木ゼミ 3年
特別協力 | 上西宗一郎（宗助工房） 吉村正照（仁愛女子短期大学 生活科学学科 准教授） 若狭町かみなかの語り部
監修 | 佐々木一晋（武蔵野美術大学 芸術文化学科 教授） 原田周子（SH ARCHITECTS & DESIGN 代表）
主催 | 福井県
協力 | 若狭町熊川区民のみなさま / 熊川宿若狭芸術祭実行委員会
（福井県 / （公財）福井県文化振興事業団 / 若狭町
NPO法人若狭美&Bネット / 若狭熊川宿まちづくり特別委員会）

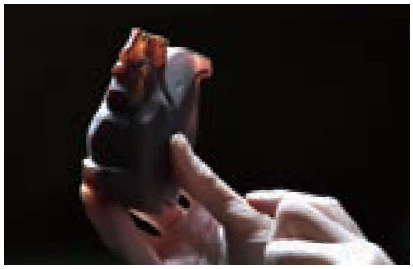
熊川宿若狭芸術祭 関連企画 | WAKASA ART PROJECT 2026

ふれる かさなる あらわれる

交易の拠点として栄えた若狭街道の宿場町「熊川宿」を舞台に、
伝統工芸「若狭めのう細工」を観て、感じて、体験するアートプロジェクトを開催します！

福井県若狭地方で受け継がれてきた若狭めのう細工は、めのうの原石を加熱する「焼き入れ」という独自の技法によって現れる、炎を内に宿したかのような色彩と、独特の佇まいが特徴です。
最盛期には50人以上の職人がいましたが、現在は上西宗一郎さんただ1人。その造形は、伝統的な技法を受け継ぎながらも、加工前のめのう原石が持つ模様や色、濃淡といった個性を見極め、それぞれの石にふさわしい形を見出すことで生まれます。そこには、長い歴史のなかで培われてきた加工技術や、人々の暮らしと結びついた文化、さらには、めのう鉱物が生成される自然の営みまで、さまざまな要素が関わっています。

本プロジェクトでは、作品を「観る」だけにとどまらず、体験を通じて、若狭めのう細工の造形を支える発想や技術、その背景にある自然や文化への理解を深め、伝統工芸の新たな魅力を再発見することを目指します。





ワークショップ

熊川宿でつくる、わたしの若狭めのう

参加費：無料
対象：どなたでもご参加ください
（小学校低学年以下は保護者同伴を推奨）
所要時間：約35分程度
定員：各日20名程度（材料がなくなり次第終了）

めのうの色や模様をイメージした石鹸素地を、景色や生き物などに見立てて、少しずつ削り、磨いていくワークショップです。模様や色を生かしながら形をつくる面白さを体験するとともに、素材の個性を見極め、少しずつ削り出していく若狭めのう細工の技術や職人の眼差しに触れることができます。完成した作品はお持ち帰りいただけます。



インスタレーション

光のなかに積み重なる記憶と風景

若狭めのう細工の素材となる、めのう。その美しい縞模様や色彩は、鉱物が長い時間をかけて堆積し、幾重もの層を形づくることで生まれます。
本作品では、めのうが形づくられていく過程を、熊川宿に広がる地形や空間に重ね合わせます。透過性のある素材が内側に少しずつ折り重なり、光を受けることで、色や奥行きが移ろっていきます。



展示

問いからひらく若狭めのうの歴史と生活文化

新たに制作した「問いカード」と「すごろく風冊子」を通して、若狭めのうの美しさの奥にある歴史や文化に触れる体験を提供します。
また、若狭めのうの新たな可能性を探り、これからの暮らしに調和するプロダクトも展示予定。若狭めのうが受け継いできた技術や魅力を見つめ直し、現代の暮らしとの新たな接点を生み出すことを目指します。



会場：熊川児童館（福井県三方上中郡若狭町熊川30-17）
10/30|金| － **11/1**|日|
10:00-16:00（最終日は15:00終了）

本プロジェクトに関するお問い合わせ先
武蔵野美術大学 造形学部 芸術文化学科
Mail:geibun@musabi.ac.jp
TEL:042-342-6712 / FAX:042-342-5191

プロジェクトの特設ページ